

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	補聴器、人工内耳 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	二年次・三年次		学期及び曜時限	通年 土1-4限	教室名	404/405教室
担 当 教 員	玉川 友哉	実務経験と その関連資格	鳥取大学医学部付属病院に言語聴覚士として勤務。主業務は聴力検査、補聴器測定、人工内耳マッピング、小児難聴・人工内耳の言語訓練などを行っている。			
《授業科目における学習内容》						
補聴器・人工内耳の原理、構造、機能について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(90点)、受講態度(10点)で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
【教科書】「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院						
《授業外における学習方法》						
授業中にも問題提示を行い、解答を求めます。事前配布資料を毎回持参すること。						
《履修に当たっての留意点》						
2年次に15時間、3年次に30時間履修する。3年次の講義終了後に実施する定期試験によって評価し、科目認定を行う。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	補聴器の原理について理解し、説明することができる。	教科書、配布資 料		・教科書を読んでおくこ と。確認テストを実施す る。
		各コマに おける 授業予定	補聴器の原理			
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	補聴器の構造について理解し、説明することができる。	教科書、配布資 料		・教科書を読んでおくこ と。確認テストを実施す る。
		各コマに おける 授業予定	補聴器の構造			
第3回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	補聴器の機能について理解し、説明することができる。	教科書、配布資 料		・教科書を読んでおくこ と。確認テストを実施す る。
		各コマに おける 授業予定	補聴器の機能			
第4回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	デジタル補聴器の機能について理解し、説明することができる。	教科書、配布資 料		・教科書を読んでおくこ と。確認テストを実施す る。
		各コマに おける 授業予定	デジタル補聴器の機能			
第5回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	その他の補聴機器について理解し、説明することができる。	教科書、配布資 料		・教科書を読んでおくこ と。確認テストを実施す る。
		各コマに おける 授業予定	その他の補聴機器			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	人工内耳の原理・構造について理解し、説明することができる。	教科書、配布資料	・教科書を読んでおくこと。確認テストを実施する。
		各コマにおける授業予定	人工内耳の原理・構造		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	人工内耳のリハビリテーションについて理解し、説明することができる。	教科書、配布資料	・教科書を読んでおくこと。確認テストを実施する。
		各コマにおける授業予定	人工内耳のリハビリテーション①		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	人工内耳のリハビリテーションについて理解し、説明することができる。	教科書、配布資料	・教科書を読んでおくこと。確認テストを実施する。
		各コマにおける授業予定	人工内耳のリハビリテーション②		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	基礎の解剖用語(内耳まで)を理解して、補聴器・人工内耳を使用する際に、どのような関わりがでてくるかを考える。	PC (Power Point) 聴覚解剖モデル教科書	解剖学や耳鼻科学の耳の解剖を確認する。
		各コマにおける授業予定	補聴器・人工内耳の理解に必要な聴覚系の解剖		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚の生理現象を理解する。特に内耳の役割(場所説・頻度説)を理解する。	PC (Power Point) 聴覚解剖モデル教科書	耳に関する生理現象を確認する。
		各コマにおける授業予定	補聴器・人工内耳の理解に必要な聴覚系の生理		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	dBHLとdB SPLの関係の違いを理解する。	PC (Power Point) オーディオメーター教科書	音響学の教科書、特にdBの部分を確認する。
		各コマにおける授業予定	補聴器・人工内耳の理解に必要な音響知識・聴力検査①		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	耳あな・耳かけなど、補聴器の形とその特徴を理解する。	PC (Power Point) 補聴器(デモ機)教科書	新しい知識のため、特に事前準備は必要なし。
		各コマにおける授業予定	補聴器の種類と基礎の仕組み		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴力検査と補聴器の増幅との関係を理解する	PC (Power Point) 補聴器(デモ機) 補聴器特性装置教科書	聴力検査(第3回)で実施した内容を振り返る。
		各コマにおける授業予定	補聴器のフィッティングの考え方		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	補聴器装用下での言語発達支援と評価、問題点を理解する。	PC (Power Point) 補聴器(デモ機)教科書	言語発達の基礎知識を振り返っておく。
		各コマにおける授業予定	補聴器装用後の聴覚活用と聴能訓練		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	人工内耳(手術の流れ、術前検査、システム、コード化法など)を理解する。	PC (Power Point) スピーチプロセッサ・インプラン(デモ機)教科書	新しい知識のため、特に事前準備は必要なし。
		各コマにおける授業予定	人工内耳の基礎知識		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	マッピング(ラウドネススケールとインピーダンス)に関して、学生が説明できるようにする。	PC (Power Point) スピーチプロセッサ・インプラン(デモ機) 教科書	第7回目の用語を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	人工内耳のマッピング		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴性脳幹反応の原理・測定方法を理解する	PC (Power Point) 聴覚解剖モデル 教科書	第1、第2回目の復習
		各コマにおける授業予定	補聴器・人工内耳の理解に必要な聴覚系の解剖・生理(第1・2回の復習および聴性脳幹反応と補聴器・人工内耳の関連性について)		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	失聴になる原因疾患と病態を理解し、補聴器・人工内耳の適応を考えることができる。	PC (Power Point) 聴覚解剖モデル 教科書	聴覚の解剖・生理を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	補聴器・人工内耳が必要になる疾患・病態について		
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	検査・評価に対する違い(迷路性・後迷路性もふくみ)を理解し、補聴器・人工内耳の適応を理解する。	PC (Power Point) オーディオメーター 教科書	第10回の復習
		各コマにおける授業予定	補聴器・人工内耳が必要になる疾患・病態に対する検査・評価について(成人)		
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児の場合、発症時期・病態によって、検査が異なるため、どの検査を選択するのかを理解する。	PC (Power Point) 聴力検査室 教科書	第10回の復習
		各コマにおける授業予定	補聴器・人工内耳が必要になる疾患・病態に対する検査・評価について(小児)		
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	等級決定の方法を理解する。	PC (Power Point) 教科書	事前に用意する資料を学習しておく。
		各コマにおける授業予定	補聴器・人工内耳に関する保険制度や障害者福祉制度について① (障害者福祉手帳に関して)		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	新しく開発されていく補聴器の構造を理解する。	PC (Power Point) 教科書	事前に用意する資料を学習しておく。
		各コマにおける授業予定	特殊な補聴器機器に関して① (集音機器や軟骨伝導型補聴器、オープンフィット補聴器など)		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	補聴器の調整に必要な用語を正確に理解する。	PC (Power Point) 教科書	第4回を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	補聴器に関する用語の解説		